立教大學新聞
発行所 豊島区池袋三丁目 立教大学新聞学会 振替東京70852 電話(97)3121—9内線97 発行人 野口宗男 毎月廿日発行

二階に学習参考書を陳列して御座います
芳林堂書店
池袋西口バス通り TEL (97) 四〇八〇・八〇二五

またまた授業料値上げ

経営困難を理由に 中大、東女大なども

去る十八日、日本私立大学連盟（会長大浜信泉早大総長）の会議が開かれ、来年度の入学に関して討議されたが、その席上、中央大学、東京女子大学、共立女子大学と共に、本学も来春から授業料を値上げすることを表明した。

本学では来年度から授業料が文、陣、人体費、光熱費は含まれていない。

本学では、この他、グランド新設、法学部新築などの諸施設拡張のための資金が必要とされるからと見られる。

収入源、授業料から寄付金へ

松下総長授業料値上げで語る

松下総長は去る十九日今回の授業料値上げ問題について次のように語った。

日本の私大は米国などの場合と異って寄付金が収入源ではないので、いきおい、財政負担が授業料の値上げとなって学生にシワ寄せられることになる。上げる方もとられる方も互いにつらいのだ。立教も現在米国聖公会から年に十五万ドル（五百四十万円）の寄付を受けているが、これは今後減る可能性もあるので来年あたり米国に立教の後援会を作って財政の一助とすべく目下、具体的な準備を進めている。総収入の三分の一くらいは寄付金でまかなえるようにしたい。

東経理部長談 学校側としても、出来る限り抑えに抑えて来たのだが、国際的の給料私学などの人件費があがって、教授の給料などの値上げで、教授のつとめ、本校にしても、良い教授をひきとめ立派な教授陣をそろえるには他の私学並みの手当を支給しなければならぬ。現行の授業料ではそれを賄い切れぬ状態となって来ている。東大などの国立大学は学生個人の負担は少ないとはいえ、かれらの教育には、一人当り年一五一二〇万円の金がかかっている。その金の殆どは国家から出ているのである。それに比し私学ではすべて学生の授業料に頼っているのである。今回の値上げも、目的はすべて内容充実のための値上げであるという事を了解して欲しい。

資金募集のためのダンスパーティ

女子学生寮建設学生委員会では、女子寮建設資金募集活動の一端として来る十二月十五日（日）午後五～九時、プリンス・ホテルにおいてダンスパーティを開催する。

第二回、学生集会は中止 全学生の意見盛り上らず

十月二十三日から今月一日まで一、二年五六クラス中三六クラスで開かれた第一次討論の結果は次のように出た。

出欠制については、現状を支持するが九%、全面的に反対五七%、一部（語学）についてのみ賛成三四%、課目選択制については現状支持十%、自由化する五八%、一部自由化三二%という結果が出ており、この課目選択については昨年と同じような傾向となり、注目すべき問題であると委員会ではいっている。制服制帽は時代の遺物であるとの見方が強く、現状維持一七%、自由化する八三%となっている。学生会を支持するものは九四%、反対は六%、以上のようなデーターを中心として、二十五日から開かれる第二次討論の方針を提起する、第二次討論終了後、委員会でははっきりした方針をきめ、学務当局との接衝を始めるもようである。

級委員会では十一月下旬に本年度第二回学生集会を計画していたが、学生集会に参加する学生が五分の一にも達しないという現状であり、また今度の学生集会の中心議題、特に一般教養過程における科目選択と出欠制度問題が学生集会で決議されるような議題となり、学生集会にかわって各級委員を中心に全体的な盛り上りに重点を置き、クラス討論を重視して今後の級委員会の方針をきめるもようである。

級委員会はつきりした方針をきめ、学務当局との接衝を始めるもようである。

研究室

今回は、今は言の舞台、平安末期に物語文盛の後を受けて現れた「今昔物語」に深い憂愁を感じ、しかもその研究に一生を賭けておられる長野嘗一教授を訪ねた。

今昔物語に魅かれた動機は、高校時代（旧制）肋膜に倒れてその時退屈しのぎに文が借りてきた本の一冊に入っていたのを見たからという。そしてそれまで女性的であった平安時代の作品の通念を破った男性的な力強さに魅かれると同時に、「いづれのおほん時にか、女御、更衣あまたさらひ給ふ」生活とは縁の遠い庶民性に親しみを覚えたという。更に当時（二十歳の頃）は今昔物語に対する価値認識が低かったせいもあり、研究者が少なかった。このことは研究の困難を感じると同時に、勇猛心を湧かせた。

笹淳者淳は、ことごとく結縁に倒れて研究が非常に難しいといわれている。これはこの作品が六、偈、本朝の三部からなる三十一巻の尤大な物で、短編の集りとはいえ「説話物語」よりも説話が多いということも原因している。

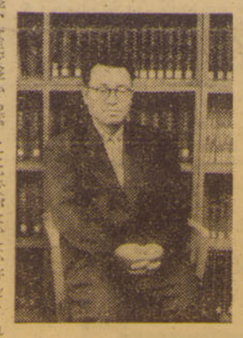
今昔物語の魅力

20年間の座右として

朝日古典全書も完結

文学部④

長野嘗一教授



たび今昔物語の話に入ると、あたかも長年連れ添った愛妻の姿をいたわり、且つ慕るかのように、引き締った口元からほとばしる一語一語に魅惑を感じ、流麗な語振りに聞き手を引きずり込んでしまう。

初めそれ程評価されていなかったこの作品も、大正に入り芥川竜之介が、今昔物語を中心とした説話文学、世話文学から素材を求めた作品を発表し、再に戦後、文壇のみならず歴史家などからも認識されるようになった。このことを「美しい恋人を連れている時、友人にきれいだとほめられる時の気持と同じだ」という。

作品の編まれた平安末期は、今度の終戦時に似ており、創造力が失われ、オーソリティが瓦解し、頼るべき物を求めてさまよう姿が、あざやかに綴られたのが、この作品である。「一つの作品を読んで、その中に自分を感じる時は誰でもそうであるように、自分と同じ姿を千年前に見出した時は感動した」そうである。

当時、本が高価であり、買う前に借りた時は感動した」そうである。

ことを父がなかなか許してくれず、ある時本屋の店頭で三千円（これは当時の下宿料を上まわる金額であった）の本をみつけたのだが、放縦の父に話してもとうていそのような金額を送ってくれそうにもなく、母に事情を話して、父には内緒で送金してもらうような苦心談もあった。

昨年、朝日古典全書が完結し、また独訳も出れ、六、八巻が近刊で近々発訳もされるという。現在はどのように認められている先生にもどのような千積み時代の苦労があったのだ。

日本文学者についても、フレッシュにしてファミリアな雰囲気に、比較文学についても、日本と外国という横ばかりでなく、古典と現代の縦の関係とも調和をはかっていく意向であった矢先なのは、池田亀鑑氏が立大に来られる前にたくなられたことであるという。池田先生の高弟の一人である先生も「一度でいいから立教の学生に先生の講義を受けさせたかった」としんみりする。

最後に立教の学生を どう感じますかとたずねると、「僕は好きですね、お世辞でなく。善良で、市民的で、そりや社会意識とか、独学心の不足は認められますが。素内もね、娘は、しかつめらしい東大生よりも、善良な立大生にもらつてもらおうつていつていますよ。ワツハハ」いかにも今昔物語は先生の任侍にふさわしい。（G）

論説

重なる授業料値上げに反対する

去る十八日、日本私立大学連盟の会議で本学、中大、東女大、共立女大、の四私大では正式に来年度の授業料の値上げを表明した。値上げの理由は「物価の値上りで経営困難となった」（十九日毎日新聞）ということのほかに文部省の科学教育振興三カ年計画の予算の裏付けのためということのようだ。本学の場合（現一年のみ適用）理学部は現行の二万八千円から三万一千円へ、経済学部、文学部二万五千円から各三千円づつ二万八千円ということでこれはすでに一カ月前の部長会議で決定していた。

今年度入学の学生（現一学年生）の場合にも前年度の現二年生の授業料から各学部とも三千円づつの値上げが行われ、現四年生から現三年生の間でも授業料の引き上げが行われた。ここ四年間二度の値上げが行われているのに、今またここで来年度の入学者に対して三千円の値上げが行われる。今年度と来年度連続しての値上げである。これは一体何を意味するのか。五年間に三度も授業料の値上げが行われるということは、授業料を納めるわれわれ学生にとっては不安感を増す以外何ものでもない。我々現在在学中のものは、既得権として今回の値上げの影響は受けず、入学当時の規定通りの授業料ですむわけだが、ここ五年間に三度も値上げが行われたことを考えてみると、決してわれわれに影響を与えないからといつてすまされる問題ではない。

他の私大でも値上げの動きが見られる今、私立大学の授業料値上げについて考えてみる必要がある。

毎度の値上げが「経営困難」という理由でなされねばならないということを裏がえせば、私大の存立条件そのものが学生の授業料であり、日本の私大にあつては少くとも唯一の収入源であるということ、そしてその結果がひとたび「経営困難」という一言で値上げが行われ、全ての負担が学生へとシワ寄せられる。至極筋の通った話にはあるが、そうであるからといつて値上げが、その回数、額を問わずこうも度々行われるならば、これは納入者の一員としても黙つてはいられない。

総長は今回の値上げ理由として現在の学校運営費が"火の車"であること、総経費の絶対額の不足を挙げている。図書館の現状を改善するにしても、その他のあらゆる施設、さらには三十四年度に発足する法学部の新設経費にしても現在の計上費ではとうていまかない切れぬということだ。

しかし、そうだから値上も止むを得ないということで片づけられるものだろうか。四年に二度、そして来年度の値上が実現されれば五年に三度、このペースで値上が、われわれから見れば手軽に行われるということ、これでは全くやりきれぬという感をまぬかれない。図書館その他緊急の度合は遅つても改善・拡張を迫まられている諸施設のための経費が、また現在の運営費の不足が、単に収入増イコール授業料の値上げとして転化されるといったありようは、学生の立場からすれば、そのままは受け入れられない。

施設の拡張にしても、あくまでも現行の収入とそして総経費とをじつくりにらみ合わせた上で、実行へと移されるべきである。しかしそれだからといつて、授業料の値上げという最も安易な道がとられ、しかも、それが度々繰返されるのは、親がかりの、あるいは自力で大学に学ぶ学生として黙つて看過することが出来ない。

社会学科

学部昇格間近し

十一月廿七日 審議会の実地視察

社会学科の学部昇格問題は、今秋文部省への書類申請などの事務的手続きを済ましこの程学部設置審議会の実地視察員を迎える運びとなった。同審議会は来る十一月二十七日文部省事務官らと共に来校し実地検証を行い、学部昇格の必要条件を踏査する。

この必要条件には社会学部としての図書蔵書数（一万冊以上）教授数（一四名は必要）その他諸設備などがあげられるが、図書蔵書数は現在八千冊くらいあり、残りも早急に整えられる見込みもあり、教授陣も、外部からは、現東洋大学助教授、杉敏孝氏を招くだけで、現行のまま充分であるとのことである。なお専任教授としては小山、淡路、大内、藤本、森脇、大島、新田各教授があげられている。設備の点についても現在社会学科が使用しているもので間に合い、新築などの必要はないとのことで、来年の募案である昇格の問題も確かとなりつつある。

学部昇格が決定した場合、部長が誰になるかということが注目され、現社会学科長小山栄三教授が就任するなどという噂が一部の間にたてられているが、この教授会によって決定されるものであって、昇格の認可すら決まっていない現在では、まだ予想する事は難かしそうである。また課目内容にしても、現在の同学科には半休講の選択課目が多く、それらを廃清して需要の多い課目だけを残すような必要にせまられている。

野球部の二連覇を祝う

上野精養軒で

早大野球部リーグ戦で春秋一連覇なった本学野球部の祝賀会が野球部O・Bクラブの主催体育会O・Bクラブ、及び同窓会の後援のもとに、十四日五時半から上野の精養軒で開かれた。

出席者は本学野球部員全員と招待された立教学院関係者、池袋商店会代表、なと総勢四百余名という盛大さで会は、野球部O・Bクラブ会長の開会の音に続き総長の宮里で野球部員全員に対し三百余名の拍手で盛会に閉会した。

早大野球部リーグ戦で春秋一連覇なった本学野球部の祝賀会が野球部O・Bクラブの主催体育会O・Bクラブ、及び同窓会の後援のもとに、十四日五時半から上野の精養軒で開かれた。

出席者は本学野球部員全員と招待された立教学院関係者、池袋商店会代表、なと総勢四百余名という盛大さで会は、野球部O・Bクラブ会長の開会の音に続き総長の宮里で野球部員全員に対し三百余名の拍手で盛会に閉会した。

三浦女史、本学教授に

本学大学院組織神学専攻科は文学博士三浦デンナ女史を、来年度より迎える。当科は前々よりキリスト教研究を理論的方向より見て行く現在の日本現状に対し、実践方面より見て行く方針をとっていた。このため宗教美術、深い関心を持ち、キリスト教研究にも通じている三浦教授の来学が待望されていた。

三浦教授はドイツ、ビューリッツの展村の生れ、当年六十三歳、ベルリン大学の哲学者と神学部を卒業した。ドイツのキリスト教研究史の大家ハーナック教授の門下である幼時から絵が好きで油絵をよくし来日後は模絵の筆をとり、個展を開いたこともある。学位論文「文学と芸術」は現在のヨハネ二世に献呈された。大正十五年ドイツ留学中の三浦は東京大学部教授とベルリンで結婚、結婚五年で夫と死別、昭和七年から京大でドイツ語とドイツ文学の講師となり以来二十五年教壇に上る本年十一月十三日学年退官、本学教授に迎った。旧名Anna Sturge

スポーツ

【アイスホッケー】

慶大を破り二勝

東京五大学リーグ第二週の13日に新鋭慶大と対戦、11—7で辛勝した。

立 大11（4 4 3 4 — 1 3 3 3）7 慶 大

【バドミントン】 ついに六連覇

秋季関東大学リーグ戦は11月2日から10日まで国民体育館で行われ本学は全勝優勝をなすと共に通算六連覇の偉業がなつた。

対法大7—2 対日大9—0 対関東学院9—0 対明大8—1 対慶大5—4

【バレー】 決勝で敗れる

全日本男子総合バレー選手権大会は11月7日より東京体育館で行われ、本学は沈滞気味の学生チームにあつておおいに気を吐き、準優勝を成し遂げた。スコアーは次のとおりである。

対神戸外大2～0 対同大2～0 対八幡製鉄2～0 対日本鋼管2～0 決勝戦住友金属に2～0で敗れる。

【硬式野球部】 新人戦は慶大戦に敗る

東京六大学秋季新人王座決定トーナメント戦は14日から神宮球場で行われ、本学は16日に慶大と対戦、3～1で敗れた。

【米蹴球】 日大に雪辱ならず2位

関東八大学リーグで、このところ日大と本学の実力がずばぬけているが本年も無敗同志で最終日の決勝戦に顔を合わせた。試合は本学重量ラインが日大チャージにおさえられて大敗を喫した。過去4連覇を飾って以来本学は三年連続日大に王座を奪われている。

日 大20（0 0 0 0 — 0 0 0 0）立 大6

【サッカー】 慶大を破り優勝圏内に

立 大2（1 1 0 0 — 1 0 0 0）1 慶 大

就職

決定者は四三〇名に 好調、徐々に地盤の拡がり

十一月十八日現在の就職決定者は、四百三十名にのぼった。全年望者の六割から七割といったところのようだ。昨年同期の一百五十一名と比べるとかなり好調である。この原因はこれまでに来た求人件数も多く、したがつて学生に受験のチャンスが多く与えられたということ、地盤が除々にではあるが拡がりつつあるということを物語つている。たとえば日立製作所に事務系で二名、技術系で理学部から一名を送り込んだことは今までにはないことだし、講談社にはこれまでもなかなかはいらなかったが、経済学部、文学部から二人を送り込んだというのも異色だ。今年の傾向としては地方銀行への進出があげられるが、例年大量に送り込むもし、そうすることの不可避である事態が、果して万全の角度からなされた進出を得た情勢判断であるか、どうか。さらに、単に収入の増加の道一つであるかどうか。冗費節約、そうなるべきかどうか。授業料の値上げはこうした諸点を勘案した上でのあくまでも、最後の処置であるべきはずだが、こうも度々の値上げが実現されると、納入者側としてはこの辺のところに疑義をはさみたくなる。授業料の値上げが、「物価の値上り」という理由でなされるならば、一体昨年とくらべてどのくらい顕著な数字が挙げられるのか。今年の物価は昨年の四・三%高である。これで一割余の授業料値上げとは。私大の経営困難はもともと分り切っている。しかしそれだからといつて、授業料の値上げという最も安易な道がとられ、しかも、それが度々繰返されるのは、親がかりの、あるいは自力で大学に学ぶ学生として黙つて看過することが出来ない。

決定者

11月19日現在

鉱工業 帝国炭鑛（経1）・丸善石油（経3、文事1、労管1）・九州電力（経1）・日立製作（労2）・日本軽金属（労1）・河合楽器（経2）・日本電機（経1）・東京通信工業（英女1）・東京瓦斯（経1）・日本コロンビア（経1）・山陽電気（経1）・古河電機工業（経1）・富士電機工業（経1）・黒沢通信工業（経2）・京川電機工業（労1、経1）・・キングレコード（経1）・富士電興（経1）・日立家庭電器販売（経1）

光学 服部時計店（経1）・ライレス音響機械作所（経1）・日本インターナショナルビズネスマシーンズ（経1）・シチズン時計（経1）・日本レミントランド（経1）

車輌 東京日産自動販売（経3）・プリンス自動車販売（経2）・山口自転車工場（経4）・東京トヨペット（経6）

化学工業 大石オブラート工場（労1）・和泉塗装（経1）・方有製薬（経1）・エスエス製薬（経1）・日本酸素（経1）・科学研究所KK（物1）・エーザイ（経1）・大東化学（経1）・中外製薬（経1）・資生堂化学研究所（化1）・東化工（経1）・大日本塗料（経1）

食品 森永製菓（経2）・神谷酒造（経1）・森永乳業（経2）・大日本製糖（化1）・日本甜菜製糖（経1）・森永製菓（経1）

報道・出版・印刷 毎日新聞（経1）・日本経済（経1）・福島民報社（経1）・細川活版所（経1）・新潮社（経1）・松本製本所（経1）・山口鉄道印刷（労1）・大日本印刷（労1）

金融 第四銀行（経2）・日本信託（経1）・伊予銀行（経1）・大六銀行（経1）・静岡信用金庫（労1）・常陽銀行（経1）・荘内銀行（経1）・群馬銀行（経3）・名古屋復金組合（経1）・三井生命（経2）・日本団体生命（経1）・千代田生命（経1）・日本火災海上（経1）・大成火災海上（経2）・千代田火災海上（経1）・日新火災（経1）

証券 大和証券（経2、文学院1）・日興証券（経8）・日本勧業証券（経1）・三菱証券（経4、労1）

商事 大沢商会（経1）・太陽興業（経2）・三和貿易（物1）・堀内商事（経1）・陽光産業（経1）

百貨店 東横（経1）・高島屋（労1）・三越（経1）・伊勢丹（経1）

興業観光 国際文化会館（英女1）・日本交通公社（経1）・東宝（経1）・新日本観光（経1）・その他4

放送 NHK（英女1）・日本テレビ放送網（経1）・東京テレビ映画社（英1）

その他の決定者

▽工業・鉱業（経22、労1）（化1）▽電機（経7）▽光学（数女1）（経2）▽車輌（経8）▽油脂・塗料（経5）（労1）▽窯業（経2）（職指1）▽繊維（経11）▽建築木材（経6）（労2）▽商事（経16）（物1）（英女1）▽興業・観光（観光（経1）▽化学工業（労1）（経1）▽ゴム皮革（経1）▽製紙（経2）▽その他（経2）（英3）（労1）（経17）（経1）【以上、社名を割愛しました。】

広告

Sailor
見るからに すばらしい
書くとなお すばらしい
セーラーロイヤルデラックス ¥3,000 2,000
ジュニアー ¥1,000
インキもセーラー

みのりフィルム
写真用品 8m/m シネ用品
株式会社 六和

ウィスタリア SHINJUK
趣味の洋品雑貨

広田英会話学院
個人教授と小組（二週間速修コース）（初歩より最上級）日常会話科・討論通訳科
新宿東京スケートリンク隣北側
外交・官庁・留学生・広告・貿易・英語を活かしたい方・ガイド・通訳・翻訳・速記・ペン一般社交・ペン一般は来れ！ 随時受付

波紋
▼"同窓会には嘘いつぶしがいる""××が使いこんだ"という声をきくうちに、九月下旬に本学同窓会の役員改選が行われ松下総長を会長に、それにつづくスタッフが選ばれた。しかし、この改選は予想と祭りの舞台を重ねた大臣にしろ、何にしろ、大きな椅子に座るものを決めるのには難行がつきものらしい。▼ある役員は"投票"という手段をとらずに話合いによる改選方法をとったため古参と若手の見解の相違が生じたが、とにの難行の一因を説明しているが、原因はそれだけではない。この改選に絡んで"穏便にとりはからつて下さい"と不可解なことをいう御人もいた。とにかくかつては世にいう"汚職"の事実もあつた▼岸さんの唱える"三悪追放"さえ実現されない世の中だから……といえばそれまでだが、同窓選として学園組織の一枚となつたのだから用政的にも、組織的にもわれわれと密接したわけで、この同窓会にこういつた事実をみるのは遺憾だ▼いわゆる"つかいこみ"という汚職については"同窓会費などは同窓会員のいる銀行に預金して、常時管理しています"とわれわれがその対策をうち出すまでもなく充分考えてはいる。心配すると眠りはないがこの対策にも支出は充分管理できるが、収入過程に対する"消滅"には何の手も下しようもないという難点もある▼同窓会の職務である会報"セント・ポール"の編集も中途半端なものだし、会員名簿作成にも以上の改良の必要を感じる。早大などは、会員名簿は毎年発行している。本学より学生も先輩も数が多い他大学に兼べて本学同窓会活動がにぶいのは不思議だ▼個人的には総長の会長を反対するものもいるが、それは見解の相異らしく、ある会員のいうように"難行のすえ改選されたとの役員は最適だ"というのが全体の見解らしい。"今後万全を期すべく努力する"という役員に不安を感じないでもないが、役員改選ばかりに話題を討論をしないで、せいぜい不快な時を生まないよう活躍を活発にしてもらいたいものだ。

学校を卒業したら何を学ぶべきか
学生生活とちがって、社会生活は、仕事が中心となります。当然、自分の担当分野の専門知識が要求されます。ですから、既に就職の決定した方も未決定の方も、これからは、ダイヤモンド社の経営書を勉強することが絶対に必要です。★図書目録贈呈★

ダイヤモンド実務知識 最新全訂版 550円〒40
最新の資料と経営方式を、日常業務に適用するために、概念的な説明・フォーム・規程を豊富収録して詳細に解説、あらゆる現場の会社の実務にすぐ役立つよう編集した、実務家のバイブル。重役から新入社員まで活用自在の実務百科事典！

経営学 野田信夫著 270円〒20
企業が社会的に存立するには、企業の利益と経済の幸福と社会的責任の三要件を同時に充すことを必要とする。本書はこの三要件をみたす基本条件と、さらにそこからおこる各種の重要問題を徹底的に究明した新体系の経営学。経営全書

問題解決の技術 Eホドネット 220円〒20
「やみ夜に鉄砲を撃つ」ような無方針ではどんな問題も解決できない。問題に含まれる要素、時期、定式、手段などをよく検討することが肝心で、それには技術が必要である。本書こそ、その技術を教え、仕事の能率を倍加させる待望の書。

オートメーションと新しい社会 Pドラッカー 100円〒15
オートメーションは、はたして経済社会にプラスかマイナスか？ 本書は、これに答えるために、アメリカの経済学者、社会学者として著名な著者が、オートメーションとこれからの社会問題を思想した名著。学生諸君、社会人の必読書。

生産性と日本経済 ダイヤモンド社編 250円〒20
生産性に関するあらゆる問題の理論的基礎と解決方法を解明した生産性講座の第1巻。生産性の意義と測定、生産性と雇用問題、生産性と市場の拡大、生産性と資本の蓄積、生産性と産業構造などにつき、野田信夫、上坂酉三他四氏が執筆。

生産性とマーケティング ダイヤモンド社編 250円〒20
販売なくして事業なしといわれるほど、企業における販売活動は重要な地位を占めている。本書は、技術革新時代の新しい販売技術であるマーケティングの正しい在り方を、宇野政雄、林周二、五老信吉、清水馨、里利勝、香川三次氏が解明する。

マーケティング—新しい販売の技術— 上岡一嘉著 150円〒15
科学的デザインと実績しい宣伝により、私たちは知らないうちに商品名を覚え買わされてしまう。それがマーケティングである。本書は、その新生から商品の計画、販売の促進、広告の作り方などマーケティングのあらゆる問題に答える。

東京都千代田区霞ケ関三ノ三 振替口座 東京 二五九七六
ダイヤモンド社

企業の近代的経営 野田信夫 270円〒30
トップ・マネジメント ホールデン他 255円〒25
新しい経営者の行き方 E・ラーンド 255円〒25
近代的経営組織の作り方 高宮晋 255円〒25
生産性向上の方法 野田信夫他 255円〒20
労使協力の心理と技術 松井賓夫 255円〒20
労務管理の基礎知識 中川俊一郎 255円〒20
労務課員の法律知識 庄野敏 255円〒20
株式会社の法律実務 中倉貞重 255円〒40
株式会社論 国弘員人 255円〒20
中小企業経営論 末松玄六 255円〒20
経営者 占部都美 255円〒20
財務諸表分析 国弘員人 255円〒20
利益管理 朝川虎二 255円〒20
内部監査 久保田音二郎 255円〒20
経営分析 国弘員人 255円〒40
損益分岐点新講 長谷川安兵衛 255円〒20
会社分析入門 ダイヤモンド社 255円〒20
経営に役立つ統計的方法の基礎知識 飯川泉 255円〒15
事務機械化時代 C・A・セラミ 255円〒20
仕事の上手な処理法 H・P・ゼルコ 255円〒15
効果的な頭の使い方 産業調査協会 255円〒20
会議のすすめ方 A・ユーリス 255円〒20
幹部社員に昇進する法 アインチッヒ 255円〒25
オートメーションの経済学 ディーボルト 255円〒15
オートメーションと新しい経営 ダイヤモンド社 255円〒20
オートメーションによって経営はどう変るか ダイヤモンド社 255円〒20
オートメーションとは何か—理論と実際 ダイヤモンド社 255円〒20
オートメーションと経営管理 岸本英八郎 255円〒20
新しい社会と新しい経営 Pドラッカー 255円〒25
産業経済の基礎知識 ダイヤモンド社 255円〒25
マーケティングに成功する秘訣 W・ギルド 255円〒20
マーケティング・リサーチの実例 三好俊夫 255円〒15
マーチャンダイジング入門 I・ウィルスン 255円〒20
セールスマンシップ 須栗文夫 255円〒20

人類存続への衝動！

スプートニクのもたらしたもの

十二月の総合雑誌を中心に

スプートニク（人工衛星）の打上げ、それはわが長嶋選手の八号打上げとは本質的にことなつたものだ。かれの八号打上げに驚喜したわたくしたちは人工衛星初号〝一九五七アルファー星〟実存の意味、それを静かに考えてみなければならない。そして、反応しなければならない。（T・K）

〝赤い星〟三つの目的

ソ連とアメリカが、狂気とも思われるくらいの〝打上げ競争〟を演じたのはどういうわけだつたのだろうか。そしてその結果、異常と思われるくらいのアメリカの〝ショック〟は何を、ものがたるのだろうか。両大国の「偏固たる三つの目的」を糸川教授はひのようにいつている。

第一の、公式の目的は、一九五七・五八年の第三回国際地球観測年の行事として、地球、太陽及び宇宙に関する物理現象の解明のためである。そして、

非公式の、第二の目的は、将来の究極兵器といわれるICBM（大陸間弾道弾）の研究に、人工衛星が大へんに役立つということである。まず地球表面で全の重力の分布が判る、また地球の外形も正確に判明する、大陸間の相対位置も明確になり、上層の密度密度や、隕石圏の衝突率も判明する。

これらの事柄は、すべてICBMの命中精度を高めるのに大へんに役に立つ。

第三の目的――それは全く政治的なねらいで、ソ連の科学技術の優位を全世界に誇示することである。むしろ、こんどの第一号の場合には、第一と第二がほとんどゼロで、第三の目的が主位であつたようにさえ思える。（中公・「人口衛星は日本でもできるか」）

このように、スプートニク打上げの真意は「ソ連の科学技術の優位の誇示」にあつたようだ。だからこそ、アメリカは仰天し、ニューヨークの株式市場は十月七日、四十億ドル（一万四千四百億円）もの暴落をみせたのである。

究極兵器―ICBM

ニューヨークの株式が四十億ドルも暴落したということは、軍需会社に、もう用はない、ということであろう。人工衛星と表裏一体をなすICBMは、まさしく、最終の、これを発射されたらどうしようもない兵器だからだ。

糸川教授が指摘するように、そして注意ぶかいひとなら誰もが感がつくように、人工衛星うちあげ万オノのかげには究極兵器、アイシービーエムという毒牙をかくしもつていた。いや、かくしおおせどころか、いまや、堂々とその姿を

その威力のすさまじさを現わはじめたのだ。

軍事評論家小堀忠はひのように説明する。

ロケット兵器つまりICBM（大陸間弾道弾）、SRBM（短距離弾道弾）の出現は、従来の戦略、戦術を根本的に変えるものである。これまでの戦争の原則は攻防の綱渡にうつて組み立てられていたが、新しいミサイルの時代は、空間を瞬間的にいかにコントロールするかによつてすべてが決定される。そのような意味で今度のソビエトのICBMの出現は、現在の世界の軍事体制を一変させるものである。例えばICBMの時速は二万キロであるが、これに対し迎上機撃化部隊の戦闘速力は四千分の一にすぎない。また原水爆攻撃隊や搭載した機動艦隊の戦闘速力もICBMの四百分の一である。戦略爆撃機にしてもICBMの二十分の一である。そのような従来の攻防の兵器に対し、ICBMの絶対的な速力の優位性は戦争の姿を一変させる性質を持つている。

一例をあげるなら、従来の陸海空三軍がいかに巧妙な奇襲攻撃の戦略戦術を練つても、これが動き出した場合、その後から発射されたICBMは先に目標に弾着して、その国家の機能を奪つてしまうという特質を持つている…。（日本週報・第四二四号）

練馬駐とん隊の存在意義は？

ところで話はとぶが〝日本ばうえい〟の一翼をあずかる自衛隊、練馬駐とん隊は早朝六時に、オイッチニオイッチニ…いやマラソンをやる。―いち、にい、さん、しい…イチ、ニイ、サン、シイ…毛氏、参、四…と激しく、おもおもしく、かん高くと抑揚をつけて連呼する。夢さめぬ朝の住宅街をおどろかせ、いまや慣れてしまつて〝まもられている〟という錯覚と幻想をもたらすが、これはあくまでも、イリユウジヨンである。私たちはあくまでも〝生存の危機〟にさらされているのだ。

二百秒でおじゃん

このICBM、IRBMなどの出現に対し、ICBM撃墜用のアンテ・ミサイルの可能性を論議することによつて、ICBMは究極兵器でないという意見がはやつている。つまり長距離方法も進歩するから、最終的にはICBMの撃墜が可能であり、これの防禦は不可能でないという説である。これについて少し述べよう。

ソ連のICBM責任者ボクロフスキー少将は、ICBMはレイダーで落見後五十秒間に落下すると発表した。私はICBM発見から防禦までしはその被害を受ける時間は、僅か百秒であると論じてきた。

またヘラルド・トリビユーンは百九十七秒しか余裕がないと論じている。問題は、レイダーで三千キロないしは四千キロの彼方でICBMを発見しても、これに対する防禦用のICBMの発射条件が算出され、それが敵のICBMを弾幕で包む までの時間は、僅か百九十七秒しかないということである。いずれにしても、ICBMの攻撃を受けた場合、最悪の条件で五十秒、最大有利の条件で二百秒の範囲内しか余裕がない。このような事実を示すのである。

つまり敵のICBMに命中すれば当然水爆の誘発を起す。従つて撃墜しても被害を受けることには変りはない。また誘発を起さないような条件で、敵のミサイルを撃破し得た場合でも、自分の力から撃つた原水爆の弾頭の死の灰が頭上に拡がることを考えれば、放射能による危険性というものは圏防の有無にかかわらず厳然として存在する。（「同」）

軍事評論家のパラドックス

〝戦争直前・もとこまできていたのか。ついこのまえまでナニヤタはしません無理だつた…と旧軍人の恐いこまつかやいていたのに……。

ロケット兵器――ICBMの攻撃を受けた場合、「最悪の条件で五十秒、最大有利の条件で二百秒」の範囲内しか余裕がないとは？これいじや、馬がしようべん終らないうちに、私たちも、どうにかされてしまつているのではないか。

ボタンひとおしで、もし、おされるなら、馬は撃ままでしようべんを、まつとうするとが出来ない果して、これを、この事実を、いわゆる〝がんこまま〟は、許されるのでありましようか。だまつておられるのでありましようか。

知性にみがかれた人間は、いや良心的な人間は、だまつてはいない。ここに至つて、林髞氏は、究極兵器ICBMの出現は〝戦争絶滅、新時代の出現〟という痛烈なパラドックスをたきつける。

一九五五年夏、ジユネーヴで四頭会談がおこなわれた時、私は本誌（中央公論・九月号の特集論文のなかで〝戦争行為を不可能にする軍事技術の革命期の到来〟を指摘した。さらに昨年の本誌（同）二月号に、私は「戦争は数十年以内に人類社会から絶対に無くなる」と断言した。この数年間、あらゆる雑誌に言いてきた数十の論文のなかで分析し、指摘してきたことがつぎつぎに証明された。驚くほど明確に事態は進行し、予想したタイミングどおり、ここに軍事評論家なる畸型的職業は消滅しようとしている。（中公・「戦争絶縁の新時代はきた」）

パラドックスは現出するか

これならばよい。安心だ。私たちは枕をたかくして寝ることができる。しかし、この恐しい兵器をつくつたのも人間であれば、これをオペレイトするのも人間である。もし腕がさしたらどうなるか。早いものが勝ちといつた気持で、ボタンを押されたらどうなるか。おしゃかである。いないのだ。そうだ人類はいないのだ。このようなとき、武谷教授の中央公論十二月号における次のような発言は、私たちの胸を キリキリ刺すそのような宗教の問題について私はもうひとつの点を指摘しておきたい。それは現在の文明、現在の技術は、先に述べたような明るい面ではなく、もつと暗い面の、ひとつの局面がはじめて実行できる段階に来たということです。即ちそれはなにも私がここで改めて言う必要はないことをいつているのです。いま原爆や水爆によつて、人類の存在自身があやうくさ ていると いうこと、そして水爆の実験そのものによつて、人間が蝕まれつつあるという、そういうことです。そのように人類を全滅ますということも人間が実行できる段階に立ち至つた。それは戦後、人間がはじめて可能になつたことです。過去の戦争はもちろん大量の殺戮を可能にした。しかし人類の存在そのものを危くするということから言うと、ほと遠かつたのです。しかし今日の戦争はそれが水爆戦にまで発展したならば、いや原爆を使う戦争がはじまつたならば、必然的に人類の存在が危くなるということは、だれの目から見ても明らかなことであります。

宗教は何をしているか

：地球上に屍が累々とつづび、そして人間の骨だけが地球上にあつて、それ以外に生きた人間は存在しないような世界になつたときに、はたして神が宇宙に存在しているということが意味があるのでしようか。拝んでくれる人間のいない宗教、拝む人間のない神というものが、はたして意味があるだろうか。それらの神々はまたつぎの人類が、アミーバーから発生して来るのを待つているのであろうか。（中公「新しい世界観の創造」）

人間あつての神、あくまでも人間が存在する、という前提あつての神、宗教なのだ。その人間が、大切な私たち人間が、その生命を、その生存をあやうくされている――このことを知るとき、これを〝確認〟したとき、私たちはジツとしてはいられない。落着いて書物を読んではいられないのだ。こころからソフトボールを楽しんではいられない。エンジョイできないのだ。――どうするか。うろうろさまようか、それともヒルの金切声を絶叫するか。

これではあまりにみじめだ。あすの希望に、らんらんたる瞳をこらす私たち若人が、あまりにかわいそうだ。それではどうするか。――「……」。

私たちは、良き、良心的な指導者が欲しい。一貫して、スジを通す指導者が欲しい。あたたかいヒユウマニズムと冷静な洞察力と、そしてこれを裏付ける厳しい実行力とを持つた…。

武谷教授の小国主義

武谷教授は日本のとるべき立場として次の二点を強調する。

現代の中にも利口な人間とばかな人間がたくさんいるわけですが、困つたことには戦略空軍はばかな少数の人間でも制し得るということです。昔だとばかな人間が張作霖を殺したりなんかしても、それが拡大するのに時間がかかつたのです。けれども、今ではそんなわけにはいかないのです。だからばかな人間をなんとかそういう地位にとどめないことの方が重要だということになります。

それから、もう一つはやはり二つの世界のの不信の念、その間にはさまつた国がその不信の念を助長させるか、消滅させるかということです。（世界「最大の教訓」）

そして日本のような小国はゲツチンゲン宣言に表明されたように、原爆は絶対に持たないということで、二つの世界の対立、不信の念を消滅させていく〝緩和剤〟の役を果していかなければならないという。そして、

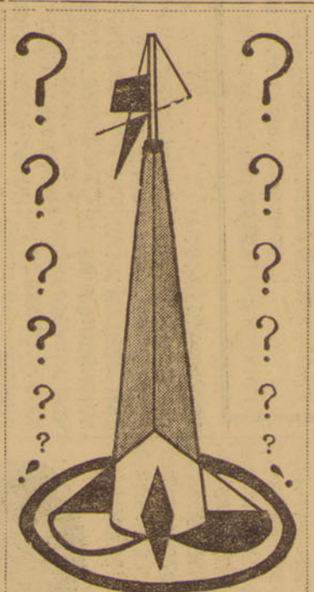
日本に持込まない限り、向うからの原爆攻撃はない。これは制限戦争が全面戦争に発展しないという一つの保証にもなると思う。従つて制限戦争が全面戦争に発展しないという場合の一つの保障としては、小国ソ連、アメリカの間にある小国群が原水爆を自分の国に持込まないという線を、これからどしどし強く打出していくことが重要だと思う。平和利用の問題とも関連してくるけれども、私は今後科学の成果を悪いことに使わないということで、小国の動きは非常に大きな期待を持つているのです。それを私は小国主義――大国主義という言葉はあるけれども、小国主義という言葉は私は主張したい――。（「同」）

私たちが人工衛星、〝一九五七年アルファー星〟打上げから得たものはピース――平和への〝衝動〟であつた。〝自覚〟であつた。そしてわが選手、長嶋の八号ホーマー新記録樹立のときに、もよおしたあの興奮ではなく、いまの人間が、みな静かに、理性的になるということもあつた。いましばらく、激情的な小説のたくいを遠ざけ、寸分のあやまりも許さぬ数学書のたぐいを手にとるということであつた。

――――

おことわり

「一枚随想」本号にかぎり休載します。


？？？